護國女太平記　自七至九

へ13
3555
2

門 へ13
號 3555
巻 2

早稲田大學図書館
昭 33.11.10
藏書

加州橋立 白雨清

早稲田大學図書

護國女太平記巻之七

目録

一 出羽守藤原義孝差上る事
柳澤六万石立身の事
一 湯嶋一平堂成る事
教生禁制の事
一 須賀笑金不法云々の事

獲ゑ安五年記畫ニ七

柳沢出羽守義子ヲ上る事

并 柳沢六万石ヲ立て才ヲ分ル事

去頃ハ柳沢出羽守ヲ牧野主殿へ御成ヲ以て
ヲ以て自分屋敷へ招き諸事ヲ
果し申柳沢年記
数度辞退ス及ハ世ヲ
ど共是非ヲ以て御上ヲ外
御成ヲ以て神田橋の屋敷へ
何ハ屋敷ヲ

御成ヲ以て出羽守方ニて
御法度

後しあり珍味珍肴をとゝのへ吉保の面々軽きものまでを
沙汰に池亭にありけりこゝに沢山ありければ諸人目を
驚しけるに而亀の音をきかせまでして左側小姓衆
何かと集まりし小唄歌などうたひて吉原と発声り
相集も夜更し古酒を出羽守と右側へ召
て座を立べしとの御事なれば牧野備後守にて
御墨付頂戴なしければ出羽守出て押載
罷出ける所に泉州大坂に於ゐて三万石吉保御加増
ありて知行合六万石へ上り柳沢の名をかつま
むと将に上られが牧野備後守出羽守何かはん
珍しき事にぞみな差控是を退しけ六年目に晩

京より参れり双ろへし御上溜に備へ給を下さると拵成
けれは出羽守をあらためて一曲と開きあれが両人
の乱子琴三味線胡弓と来ぬ一人づゝの小唄をうたひ
おさだ舞子武人凌裾の裾を高く取るか殿しき所に
なる風情をあらためて一つの様し将軍様
かへるに付清き御事ありしが事
珍しき御感浅からず牧野備後守を召して御例乃
半年ましてより後半にて酒宴を興とせし御褒美
数多自然と重ねて出羽守抜群池亭あり
上意何事ありし儀あらしとあるのに夫々叶ひて吉
歴々為し差上ありし中さだ牧野より...

御継とまて遂ひ至りかゝりて終に御局となり給ひけれ
新て御満座となりけるに及ひ日を傾きたる事を遂
還御なされんとする時 将軍様御出あそはされ事を思召
舞子をして御側へ召せられ其行末何事とも美女と云
御例の女中とちかひ風俗立並り今家御目をかけさせ給ひ
少へ御気を移させしその者をたいせつに奥へ送らせ給ひ
けるに 上意にもかゝる者を召されたる御羽目をなれ給ひけれ
目とも申す事に及はれく 還御之出羽守を御供にて
登城あり 御台所の御殿へ参り御居所に封面
し先達ての御用を勤めあり女中方一統同前にて
其の後撰み遊ひ能を仕立て給ふ方へ 御成と申ハ

上覧に備へありし處御意に叶ひけるゆへ右の者へは御進
物ある内御前へ召出されけるに表向きに 御台様より御進
物なし其上中ゐる 御台様へも御礼申上御召返して
出羽守の働きを御褒美として又御膳番衆なとわける羽目七人の衆に
子供衆へ引出物被下 御台様より御進物の事
将軍家にも羽守の働きを御喜悦ありて御褒美の
御奥 御殿にて御舞遊ひ御満座にて御奥へ
られ御家に女中に移らせ給ひて柳沢の女中を指出す
風聞ありて後日に婿あるへしとて牧野備後守へ
之助 御台様より御殿へ召抱の義被仰
子を目にかけて遣されし御披露あり井伊掃部頭の

業を遊し無きこと故きて　御意下りて法賢女なれば

なりしとぞ出羽守の業とも思召しけるに先聞

才智発明なる者に有人を柳沢へと御遊覧おはしませ

常なる者も極めて世を不欲なれば、かやうの快楽もありし男

色無き者をすゝめ春をば仁義をかざり学文を好む群にて

君文学に御心傾き給ひかかる上に天下は学校をも立て聖堂

をも御建立ありしと云上は、然る聖堂の事は往古文

武天皇大宝元年始めて日本に於いて釈奠行はれ孔

子の廟を建てましが、儒学今に至りては遂に絶えて

中古断絶して後、尾張中納言義直卿　道春に

命じて上野に於いて寛永十年聖堂を

建てましに其後焼失せしにより其のまゝに松沢

かすかなりしと云。宋学向後毎年此年にもせば　御名に叶ひ

ありと　御作ある御事五丁

湯島に聖堂御建立の事

并　穀生業新乃事

元禄聖堂は古より柳沢出羽守に　御作事

奉行に仰付られ、書院番頭中坊長門守

御大工頭小役人を召合　湯島に於いて

地面に　御儒者林大学頭

道春例の書をとりて毎月仮屋へ

又折々柳沢が許へ成せ給ひしに金銀をいと多く
くの人数をかけ宮殿を作らしめ玉ひ其の御普
請も成りし奉れて元禄四年八月廿一日戊辰と云ふに
大聖孔子の御像を安置し奉り刀指なる家にて大成殿は
くし　将軍家の御宸翰を入置つけ額に掛明院大納言
基輔卿の筆にて額目出度　将軍　御成有りて又之
家臣等へつゝみ下され及び其の書を御物とし玉ひ
聖堂へ献上に付き参籠し林の湯島なる神田へ
八島の山をおこして移らしめ営み千石の
寄附ありて林大学頭に賜り其の武事日本国中へ
将軍家学問を成し給ひし程は聖賢の道を尊敬しを

御仁政を施し給ん事こそ有難しと悦びける然るに諸侯方は
御氣色を窺ひ奉り我も我もと思ひ思ひ経を弁じ是を進め奉りし
なり柳沢が工夫を以て男女の色を以て御心を迷し奉りける
由へ有る大名旗本よりも容色美女を選び是を献上し
しとも聞えし出羽守が縁を以て内々にて献上
聡明なる娘を尋ね探り七八人を撰て奥へ上げ
させ大奥女中と言ひ共に覚えし又遊芸の能とて
して折々奥へて不縁のものとも申上　御母君
御臺所は御奉公に差上し　其の御同じに
仕へけり萬にに成ぬれとも　御若君御誕生あらん事の
祭器なり殊更て御祈祷をなされ　男女共に

法師裏を得てまた六角風流の通り芝居狂言なども
稱市聖の事なる物を見て色欲の法師共十四五歳
の比より切て出不学法師ばかりの面々おとなる
僧さも出典業成成出家成成出典業成成
立るものみ
家さも出病者多し依て拾牧堂に
面ひとめ中者ばかり堂成成出病僧尚時とかく
法師さもさもとて
出奢成成人と計なり末代代僧
中間さも依て法師如乃若年の称る事法師
方を云る如く昔は出道と今は法師を尾上井
上はめさも僧医者しかし物まさも出典業成間位なり

きれで護持院僧正はめさも若殿様は法師ばかり
不思義は名僧の事歟是後で法師禅定僧
物なしなる事少れば僧侶はいかにも乱うるづ戒牡
義何なる道しかんと云上ばかり　将軍成の事
法師せのかたの右馬頭と申しに天理を立て天
下は是ばかりせるかの物　法寿院
法師成の事は出家して又出世の始天和二年に
成る年形り実を僧侶の教生成様ふ別て
大をい出るものなで出病氣出家
こんあり若長僧なで出病氣出家
仕り大法を術して立前は事とんせなり

云上して退出しけり誠に帰らるゝ所護持院の御
事なれバ君彼寺へ入らせ給ひ何事か見と問せ給ひ
中列坊の中にて牧野備後守共に宗取申上
られ候則ち今度の殺生かたく禁制にして尤も大切なれ
給ひてさへ生類の命を哀れみ給ふ事しかも御母
君の多くも護持院に帰依しかバかくの如くなれバ御母
君御受ありし日に御使の錦黄金を持たせまゐらせ
こそ牧野備後守柳沢より白銀五拾枚もって送りける
此節先にも日毎に御病気に彼是有けれ
ば扨又其外御病気を護持院にて祈禱あり
し五蔵院ましまし白銀千枚にて寺の様と天下大

平の御祈祷にて勿論以後参詣あつく遠慮無事
云上すなわち生類あはれみの仰出されて女中までも生ける物を
放ちおのおの放生して護持院と御城女中迄も
の参詣殿も元来柳沢と合躰の事なれバ下女なども
の此近く御殿女中にてぞ相はれ隠居の御領
日隠れ房と申坊主ありて或人の美僧をかくし悪男
しきに奥女中の祈願の名目にて出入りをなし一入評判
よろしき事もあり天下の帰依に成りしハ柳沢
の縁者なるを以て利しれける事ともや

須賀金弥御預ケに成りし事

并　牧野備後守殿役儀御免の事

かくて大老酒井殿の御役儀御免ありて御隠居仰付られ
井伊掃部頭殿も出仕なく引籠られし故牧野備後守
殿ひとり御用人にて一番の出頭にて早速の御役儀を勤
らるゝ故御威勢日々に盛なり　将軍家
学問の道を好ませ給ひ其御学問ありし故
教へとなりし御心に叶ひしかば
綱吉公御代の初め御取立なり　御病気なれど
歩みし人の松平右京大夫輝貞も出頭にて
格別に御懇意ありて御役御免をも仰付られしと聞えし

どのやうなる事にや備後守殿と申す人を取立
人なりしは此御威勢の程をおそれ申し候はん其事に
わたり此小性頭奉公を勤めし其の家の子ども此事と
存じ候年に至りし忠義ふかく家の中に申すも
ありけるは其の掃部頭殿の家来備後守殿の家来
なりしが今此小性役を勤め居り家中の人々
申すは君恩山よりも高し牧野殿を殊に
中々の事にて備後守殿も語り居られし
牧野殿より井伊殿の内意を承りて出頭
ともに御心を用ひ当役を勤めし上
はかり日数を送りし御沙汰もなくして今は

この様に柳沢ハ御事取中られ出羽守と叶まで抜く
其年中ゟ奇特なる者ざし志て我ハ始めて無實
にし成りし御酒宴の御相手ゆ成りしゆへ何卒
若君御誕生あれかしと思ひける井折まハ今是を諫
奉りしが是の淫事に物しせのハ却りて天下の御為
なりと御光ひも随分と御機嫌をとりまきて難しき
おそれ給へあらば御奥様ハ段々へしかんきな合はハ筆
にも遠ひしなきて返答しでこそ坐席を志てもまきき
はあらしおそれながら忠臣と思ひし柳沢ハ却のなく
なす禮が誰あれと諫めたてまつるとの有けるに心をいさ光
しも出事に御様子ハ長し中奥へ女中をとめられ大奥へ

御小性衆ゟ入込ミ昼夜の御遊興ハ日々に重なり今は女も
是非なく一命をも捨て一存を以て申上れバ若輩者の私
申上げても恐多く存れ候得共御奥様と申すものハ昼夜
御酒宴を催され候事其上御誕生の為と称しなく
ことに上男女同席の御様子ハ却て御身の一度武家の奥ゆかしからぬ
法度に背けるとなる事にや　御城内に於ても何事
有ときこえハ御外聞あしくと　君ハ御事取万民にも何卒
其まで甚しくはいかゞかぶしまかせ[illegible]何卒
この様にと留ハせで御酒宴をと折ふしに抑へらるれば
却って奥へハ入らせられんと恐入ゝ言上す思ふに今や是が
諫言して依て御酒宴ハ止まりし甚しき機

嫌をうけ拙者年比ぶをもつてこれをなさるる諸家
屋敷より　上意を俟て人々金子を出し退散
よりの事申して金子を出さざる者あるまゝ備後守へ預置しの法事なり

護國寺太平記巻之七終

護國女子学院生徒八

同録

一　柳沢弥惣左衛門　正加藤　と成る事

一　藤井敬吉　柳澤　土屋　と成る事

護國女太平記巻之八

柳沢脇坂を立ち婚礼の事

并

法作方婚礼を止むる事

扨も柳沢出羽守は脇坂の家老と云へ共奥勇へ
猛く剛直の者にて殿様の御意に背き柳沢と脇坂と
兄と弟の事なれ共水と火の如く犬猿の仲にて
互に憎み合ける人なれども同じ様の結立にて暮に
屋敷に持ち合ける吏り抱の者迄持ち来
花車〳〵と云へども立ち合ふ事
風俗を乱すの女房迄出羽守

者ども支をいぶせ出家まで勢のことと云れおあり
乃庭の切り戸成あり爭立家の長屋出羽守出房れさん
戸繩のうちゆ猶出ましに八文字見拳に首根指天
已に此辨ゆてをーかゆ辨ゆ流れ大町に夢人日
あり玉蔵を引出久ぎこ花車信濃を兎う
屋ーこたまこと山成ら生年云外方ら
さーき客ゆ方を花もあて吐ーらはき
出羽守中久部出境の通りに新吉原の
支うのうへ松平陸奥守うに出を尾張振
ゆ出羽守殿ゆいかゆの年出境ゆさゆへ
振り成かあうこと楊屋辨成ゆ妻と支

うゆ出境出ましゆ新ーゆ楊如本とい
遠ひ指原ら高宝地ら何屋大家と云
ゆと屋のまに出ーら沢宮風ら年ふじんら
ゆうこゆ辨を出屋ーゆ家ーと柳沢ら
大屋大指ゆれる辨ゆ出ゆ
ゆて沢に圓へ流ーゆ流ゆ流ゆ如部長
皆考人兎ゆ屋ーゆ年ゆ如部長
組吉公ゆゆ屋ゆ出ゆ
ゆゆ形ーせゆひ是ゆて出ゆ
辛出ゆゆと及ゆゆ出ゆ
弥ーゆ屋成表ゆすゆ

[illegible] 何とぞん [illegible] 法華経を [illegible]
[illegible] 国郡 [illegible] 人 [illegible] 御 [illegible] 清 [illegible]
[illegible] 実で大事と御 [illegible] 清 [illegible]
道 [illegible] 進め [illegible] 将軍 [illegible] 法 [illegible] 智 [illegible]
[illegible] 智 [illegible] 一矢 [illegible] 傾城 [illegible]
[illegible] 傾 [illegible] 御 [illegible]
[illegible] 入られで [illegible] 松平右京亮 [illegible] 使い
[illegible] 遠所 [illegible] 翌日 [illegible] 将軍 [illegible] 鷹狩
[illegible] 二万七千石の [illegible] 加増 [illegible] 松平右京亮
[illegible] 御成 [illegible] 御 [illegible]

[illegible] 法華経 [illegible] 生 [illegible]
[illegible] 対 [illegible] 不思議 [illegible]
[illegible] 任 [illegible] 御 [illegible] 天の [illegible] 生 [illegible] と大 [illegible]
[illegible] 若 [illegible] 法華 [illegible] 毎 [illegible] 法
[illegible] 男子 [illegible] 御 [illegible] 護 [illegible] 院 [illegible] 変
[illegible] 云上 [illegible] 及 [illegible] 将軍 [illegible] 男子 [illegible]
法 [illegible] 御 [illegible] 七 [illegible] 御 [illegible] 法 [illegible] 成 [illegible] 二万石加増
[illegible] 松平 [illegible] 十二万 [illegible] 二万石加増
[illegible] 家 [illegible] 法 [illegible] 作 [illegible]
[illegible] 表 [illegible] 仁政 [illegible] 暫 [illegible] 人 [illegible] 成 [illegible]

無きに如かざるを恨とす及き新知機嫌とする
名相名産を執立の如し 出様に仕立すると
称しめんとしに其是に大小名出化りと
うけまれまた新と名面ふそ尾敬し柳沢
家なりしの子の恵寺海彼大義年
やんと新保の出頭まれ一家の大名と称し
なる為に風なんなる女子成長に手まで
縁組なんと松平右京亮殿の面人成年
となりて新なれば父のめくうやまい恐しく
通しめ市前のそ尾とよく右京亮武万石
の加増ありて六万弐十石なり七屋出頭なり之

百石に加増ありて九万石なり常乃伝左衛門
なる者なるの流大名なり我も縁法とおもし
迎まぶ柳沢之吏しめ大身成年に成ること同家
まを無ふの形しに孫と妻無成と人を名しみ
不二出家中大久保加賀守の長男彦七と
遣り活れと云利に不申一家出頭なる者
得分なるの右衛門に及ぶ時に家老曽根権左
吏萩田の弟甚右衛門用人沈山伝兵衛滝口平左吏
なと孫先々なる大久保
なるの書に水戸徳川家十三万石
世度に縁組の義中詰
彼の細川義中と

相手作藤左衛門尉殿の上杉弾正少弼殿の
何事と大身国を以て歴々成敗を重れ大久保殿へ相
渡候ゆえ此のよりて為御使者上杉弾正忠殿へ
申合て柳沢右京亮殿へ
御使ヶ様に大久保と
申合て
出羽人兼帯なりと云ども家中の者ども
大蔵殿へ参る事十日程
官京方の関白に成
また親を近き事
先ず大久保を
申合て
武士は極
家つよ
大蔵殿
古参や
彼手
上

為御使者
内い
成敗
取入り
沢右
出羽
大久保
相原
原
原
城の
害
清
寒
約束
出羽
出羽
父兄
中山
小性
方
小性
男
平成
小性

為御使者内いたす成敗取入り沢右
きれなど井伊は当沢道へ出
の使者原へ大久保も相原出羽
原城の害清寒
のもれ書ゝ自由に寒
一方使り少し約束
ゝ出羽と城へ
出小性男
父兄
当方と名京
親

いゑ一ニ申ス所ニ家ニ入り次第ニ立身し家ニ黒田
豊前守ニ召ル石の内ニ弐百石頂ス是ハ舞子ニ召つの
警固ハ家ニ並ハ家ニ仕ル

蓑井紋左衛門　柳沢大光藏

蓑井紋左衛門ハ柳沢左右ニ出ル事
郡内出身ニ大光藏ニ成ル事とのゝみ所ニ家ニ
ハ代ニ立ル人ニ成ル事ハ大納言光通公紀伊
中納言光貞公水戸宰相綱條公之黄門光圀公之
此時ニ陪臣ニ成ル事ハ代ニ家人ニ

蓑井紋左衛門ハ柳沢左右ニ出ル事ハ武蔵の
達人ニ成ル事ニ百石ニ成ル迄習ハ剣一ツ柳沢ノ
家長藤田左衛門ニ召つる舞ニ是ハ武ハ義の
左衛門ニ召つる引合ハ出羽守様ハ水戸殿
家来ニ成ル時ハ剣術ハ水戸殿
水戸殿ニ出し城の内ニ出羽守様ハ家来ハ
蓑井紋左衛門ハ柳沢ニ舞ニ仕ル内ニ
可立人ハ多ク出ル所ニ出羽ハ掛ル事ハ
多ク出ル水戸殿ニ出ル柳沢ハ接待ニ成ル
来ル時ハ家ニ用人ニ立身し
八百石ニ成ル紋左衛門ハ柳沢ハ長

なりなこ勅ひめの出遊まを命ぬ〻こと〻なりを敷
田〻中名で出羽守ハ彼の所領ハ〻ゆ紀伊国
を見遣〻て蜜事と呼ぶ事出来ぬ〻ハ大石
〻ハ立ん中に有〻ぶ紀之丞血判〻ゆ
貴出〻尚と水戸殿をひのさむきし〻逆ひや事を
人公なきバ千石ハ加増ゆ〻千八百石ハ水戸
年寄役〻分出ぶ〻郎水戸殿をばに
入意丞〻利紀伊家〻入〻んと思案〻市郎
出家ハ出ぬ〻なすゆ〻ハ〻ハ侯を出房ぬ
ぬ〻〻云合の桂昌院様〻上〻野国姫ハ
ぬ〻出家長〻ぬ〻〻ば出縁ゆんの出〻こ〻ぬと

丞〻出〻甲府様を出羽二様家〻〻出信中出入
乗あり紀伊の出婚男宰相綱教〻ハ出氣毒〻ゆ
出年ぬ〻ハ〻ゆ〻ハ出〻まゆば紀伊〻〻〻ぬと
す〻ぬ〻ハ桂昌院様〻ハ出ぬ〻ぬ〻ゆ
将軍出意〻ハ〻出ぬ〻ハ出養所を
野宮ハ男食ぬ〻と出ぬ〻ハ出事〻ゆ〻んと
出老中〻ぬ〻ゆ出〻ぬ〻ゆ〻ハ〻ゆ
〻〻ぬ出〻ゆ中〻ゆ〻出〻家ハ〻ゆ〻ハ〻ゆ
先代ゆ〻ん出ハ〻ぬ〻出姫様ゆ尾張〻
〻〻ゆ出重様ゆ〻ハ〻ゆ〻ハ紀州〻
〻〻ゆ〻〻ゆ出〻家〻ゆ〻ハ出〻ぬ〻

寵れまさりけるにや名しめ何に思召けるやと申けるなど
志し固く種々手を尽し縁て御内縁を頼りし
故桂昌院様御仲人にて甲府様紀州様の御簾中
と成りし上は時々御用を足して出羽守は百石と云
乃御縁組なれバ御支度敷し云後延びなし
見えて柳沢は五万両の地を得たり御縁組乃
吉川御楽返として紀州殿御分地松平左京之丈
御蔵り御楽柳沢出羽守を奥方紀州の
其事を御堂前の御家老柳沢へ続事
乃次第十二万石とへ大内迄五拾五万
石までになりし加様なる事大久保の御曹

長つゞる三男はいづよ柳沢が加増まで
御おん成せ姫君と合せて大
老は申ばいまだ大久保に出羽守
御縁組と成し事なれど
御用の席にて御機嫌と合せ柳沢が事
忠勤を尽して仁政をおさめ
数々の功を以大老職に仰付られ
御政事なれば天下の安全をと云
将軍の内外の政事へ其御志し
古老は大久保すみなりし板倉が計
ひよ始しに郡中なりと思召

大光藏之亭ちゝ亭ゆ（佐一郎ゆて長く拝さんがゆく
佐之家（佐お淡ろ〜ホ柳ゆ〜尾張殿ゆ之佐年間
ゆて紀伊水戸ゆ佐家ゆ〜い佐まゝしゆを入意
白紙ゆ〜〜佐返ゆ言ゆる故文ゆ〜お胸ゆを
百ゆ之方亭紙忠流ゆ〜佐思ゆ之ゆ之方ゆ
佐加増ゆ〜ゆ之執拗ゆる〜ゆ〜む〜ゆ　拝ゆれば
出勤ゆ之教ゆ亭ゆ亭ゆ〜佐ゆ佐ゆ
御沢義流ゆ〜佐清ゆ上ゆ見ゆ
改名〜ゆ亭ゆ改道御沢ゆ〜ゆ
ゆ〜ゆ佐之中義ゆ之ゆ佐側元流役人ゆ之ゆ
御に役智〜ゆ之ゆ〜ゆ〜作ゆ〜ゆ〜藏ゆ天下ゆ
家ゆ佐〜ゆ〜ゆ（ゆゆ

細川紙中ゆ杉平伊藤ゆ者馬玄蕃流酒井雅楽頭上
杉彦之大弼ゆ之大才家ゆ〜ゆ似合ゆ日〜ゆ佐
日〜武ゆ書ゆ之遣ゆ対面ゆ亭ゆ佐ゆ
出合ゆ〜ゆ佐佐之家佐連枝ゆ〜ゆ〜ゆ拝拶
〜家ゆ用人ゆ〜ゆ御ゆ今日ゆ佐達下ゆ永
佐接ゆ佐ゆる諸ゆ人ゆ大ゆ夏ゆ〜ゆ雅楽ゆ
亭ゆ〜ゆ〜　御成ゆ〜ゆ　拝ゆ亭ゆ〜ゆ
流ゆ亭ゆ佐ゆ　御前（佐佐ゆ佐ゆ何ゆん
ゆゆ佐ゆ佐ゆ〜佐ゆ（佐ゆ亭ゆ〜ゆ
ゆゆ大ゆ佐ゆ　伊流ゆ亭ゆ〜ゆ
ゆり無ゆ藏ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

その上官へ申しつけて服忌と号す。これは法なり
て此流通にして武百石の物成は此服忌へ下されけり
又その十歳の時伊勢守の家へ後に女房の成人
まで男子なかりしが懐胎となりて安藤と申上
しけるに綱吉公の御前に逢ひ妾に生まれ
四人の女子を太夫に成人しけるが女なりけり後の光
を世に当家の相続を受けて中井家に毒害して殺し
其頃よりの非道あり二男三男ありて百まで一万
石のかもり刑部少輔と号し子
孫まで相続有柳沢大光を付けて嫡子に獲持
院となり御前へ召し戻されしが後に此御家

唐の法に而り鳥類までも法にて諸獣は申すに
人々あり作法にて申し上げ獣を殺す
及び虫の類までも殺生する事を停止
於て鯨も同じ城内にて蚤蚊まで
殺生すべからず御桐の間にて入口新
名前内に於て上青口に御伝太郎つ星野小右衛門山
名右近大夫方に名前福井内蔵之丞立花左衛門
法に生らず申し平安房右十人を生殺役とし
此者家の内へ瑞院の教へ法令を法例の如し
生類を憐とし小さき虫を薄縮まで猿
一万五千日成る事なりし蓋は是を付け給ふ

未練なり事なしと御霊物へもおもしろき事なれば上
野増上寺などへ　御成の折りとて
御霊所の門内にて御案内して御通行あり
これより道へ城の数多く御手にて御勝手なりと申し
を出ばとく勢ゆへ、故に御当りにて御免なふ御のともし
上意ありしが此れまで柳沢にて御機嫌いとめしたまひ見送り
則ち御請けし御手　御成の節は御廟所
の門内にて出まて見送りまいらせしに其の所にて御成の節土手にて武士余
りて築立その中へ我此の御まがふ諸忠の門より
求めて御拝の通り上の衆は遠慮の事也けり
柳沢は此れを聞て、其方が存知候て先代松平伊豆守

由しまゐらせ、其の悪を御威にありしかば、このまゝ若しや
は大成る志をもつて申しつけ、将軍家御文
を据ゑ柳沢が申しし如く、美女を集めて君の御気に入り
なりとも、ひとへに君の御腹立の御寵愛の事あれば
表の女房衆ども、ただ衆をかへらんことを存じ申し

護国女太平記巻之八終

護国女忠義孝九

目録

一 柳沢吉保義女を抱る事

一 荒濱重蔵妻夫婦を教る事

附黄平蔵

体十郎重蔵切る事

護國女子平記巻之九

柳沢吉保女成抱る事

并 所貴山三郎平義を殺す事

去程に柳沢義孝吉保大変なり従四位の侍従にて
従知拾五万石にて三万石を当代にいまり例
の武士世に捨ぶ是は春の末に成て
事成腹を切家来中村兵衛を捨ぶさせ
雪の中江戸京都まで乗物にて
美人千勝まで乗物にて役人と諸家
に日成送る所に其三郎早速奉公人

世間人ども立ち寄りて柳沢の家中に生
入りて様々世事ども問ひ聞き書留めし
まこと乳母やあるゝ人の何か歩行
御用所の内に入り安女を召寄せ迎所の内に
少合ひ様々源平義経人乃娘の世
世に名れて世間に語り平義経の宅とて
六条堀川に見られ尾張うちに
所々まで迎ひ拙者大名方に迎入て源
の世に義経乃娘と申しの夫
迎に平忠盛ありて一度相続と申す事
なん一度敵ありて平義経まで
永々源人
雑説いろ〳〵ある中に是まで人の娘傾城妾
いろ世に不定流石諸国に存世
成りとも大名方に耳外や何と
世に若者に下ると云ふ
役人方一見に度ひ不作法ケ様なは
成る髪形に南世風
色宅にて同乗役
頭巾の一と一で平義経
如唐中なる人と女の唐
生れ付き義経の

見へ成まゝ先方まて仕立ものを被下候
をたのまれて丑之介方へ罷越
平義武節義成なれど若衆中さんとの
後を伺ひ暫考候丑之介方へ
かゝる様奉公人ゑんぐるし式部成るをめを娘
乃婿なり出さかを竜をこうるを毋さ国道して二階
へ越り廣さ三畳敷を高さ〳〵掛り後役人と体
あんこを世を新平藩下家風俗百人て秀逸人
あれど大変に勢ひ合家の長ゆ祖母てゝ御出新
一生不通て右地へ出ん為ゆ年加
く言葉こと為方ば三族をあやは

ゝ云ゝ来てで丑之介方へ
きて此ありれ家ゝゝと合ゝゝ事なり後ぎ
畏り奉ゝ清合役人へ成通ゝ駕籠を乗ゝ
祇園町へ連行玉蔵ゝ対接ゝ同人義役
山崎役人中ゝ来ゝ入
一生ゝ西の出家公形何後乃ゝ年
重ゝ平蔵ゝ形ゝ出ゝ捕ゝ
山ゝと面へで丑之介方へ折ゝ云ゝ役人
乃調ゝ後日ゝ知ゝ
しゝ成ゝ右後相ゝ先方ゝ
出藩ゝ高ゝ井伊家成ゝ先世中一生

秦公武家方へまゐる事形ばかりなれとおり紙
法師のごとく案成るの形まゐ者百金汁下し
屋のかたをもて上座へ出し給ふ帰り支
うり屋者へ切後人下へ行の法重武百文手行事
お文をかへり世房とうと新家東公人所賀寺
初うりかうの金設をし事か百文を載れ
切抜て神棚へ行者重法ゆり百西成持参して
嫁成連ゆんと思成がこの警家浦人へまい
何方へ屋へさきうと抜かくゆいくんむざと
嫁面ゞ志ろ形時を陽ありて面倒なれで似を待
成ゆしら〳〵浮名さ勢人と於りん蕃人沖浮ふ

荒演者屋ろうと浦人この迫所乃とて行角しる
ゆ社形まゐ雅ゆの加ろゆ角家ゆ者迫者家
神を彼の者義成教屋成ゆ栄行折嫁
屋角ゆかまて文ゆ武之人者合
ぶゆち成ゆちゆ居行家ゆ見ゆ折ゆき
法者何法法用ゆと尊ゆきは丑屋角ゆ小角ゆて情
常屋ゆ能嫁成見者者大ル歴〳〵高年
者と浦ろゆ行来ゆ角ゆ行ゆた之嫁の新ゆ
浦人ゆ町家ろゆ合点きた之教角者と
八法日利屋ゆ角ゆ者法茶屋形ゆ役人世新
ゆ法者ろ者と行ゆ屋ゆ家能ゆ寸無ゆ夜者ゆ

我方へ仕用之ゟ（ゞ）拾金三両進と云ふ家方へ
付届の儀ニて壱両ゟ為こ（ゝ）ひ文ゟ外ゟ
浪人乃壱名を伺ひ申ニて出ス事ハ浪華
諸藩所平義と云ふ浪人ゟ壱両大き
ク驚きゟ平義を我ゟ外へ出ス娘の
事成見ハ中ニて申聞ニ伝ゟ此ゟ
少入ゟ見ル井形きハ拾ゟ家ゟ加申ニ入て
無ゟ通り書集ニ成ゟ武部成義ハて
屋敷乃拾式ゟ和ある乃ハ形きハ和得成ん
拾ゟ長ゟ平義方ハ出ス屋ニ入ゟ拾金
三両ゟ渡ゟ三ニて出ス屋ゟ百両ゟ平義

ゟ拾ゟ云浪人を渡人ゟ仕ニて
色ニ云合ゟ壱ゟ義ゟ家ニ伝ひ形出ス屋ゟ入
て中ゟ形ゟ娘ゟ井前屋ゟ入ニ出ス通り
壱ゟ百文中ゟ入ゟ屋敷ハ渡人ハ元家ハ元
乃白紙ゟ紙ゟ屋敷ハ渡人ハ元家ハ元
井清ニ出ス伝ゟ丈婦ゟ伝ひ乃ゟ片
入ゟ通ニ壱義ゟ財ハ成ゟ伝ひ
壱ニ百拾ニ出ス井ハ出ス屋ハ
壱公ハ事ゟ拾ゟ出ス為ニ紙ゟ一生
白源ゟ首尾紙ゟ出ス財ハ成ゟ
大坂紙ゟ入乃ゟ成不中屋敷ゟ阪田町ニ丁

同切れい後日に[illegible]
義まし[illegible]
[illegible]
上に出し人あまぼ[illegible]
[illegible]
[illegible]

成り申すものや外の婦義成おそれ堂義一
之所家と備りあしくり申すべし恐入奉
堂義丑之歳夫婦成敷事
兼
伴十郎 平義成切る事
平義之子娘訪所平義之娘成長に出
金子八拾兩程借申候 偽金成給ひ強金成元金
こしらへ小兩ハ仕成 仕成なる形を先堂義之
悪者あるへ貧義乃 ぶに貧 堂義之来れ
事なるかゝるの事 お侍十郎之ようなり形く

たゝ見れ事なしとは云給て出さるゝと金子出
懐中堂義方一切をて娘事 訪所奉公に
出 金子弐拾兩程借 娘事 娘事 出
義り少く儲り 兄弟共事なるこ娘
孤くいの沢くなる 堂義之五三歳
拾ゝ七八拾兩 娘事 事
無少之ゝ家 迫之ゝ也と金子
兩久しなりて 元分なり出 例乃
屋事かり二三日の内 強ゝ沢まけの元代
形なり 中方へ紙 重兩成 移出
ゝ十郎中ゝ訪所 平義之日数立に

陸奥の姫の立入、武家方へ奉公
仕りたく存じ、下村[illegible]侍へ
[illegible]、[illegible]
孫、夫より阪田丁へ[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

及乗りうば女房と迫所へ出て成丈との神成
きっと先出家用之おれこと雷蔵屋より請取の上
おぐめんと新事（出家）等にて出家をおさせ
雷名に流石女の哀成る七拾両計り出包成の
内に持参金三両出家（源）金子
彼の包成を内へ迫（源）出家
と孫吉に投出家を大変出て切る者も
こと孫吉に出家孫吉百両成を受けて
二方へ切分に輝て出家
伺まし早死より彼の金子成奪
こと迫帰り迫所より

吟味何度出家と大騒の内（尽くし）
迫所へ出て源と婦切き居ると大変に
驚き百姓東方正（所）の町番屋
番屋の検使（成）吟味
女房の長死出家を源に形まで
成に何者の仕業と尋ねに出家若者
成の神明参詣出家絶て失う神明前の
変義とのの石摘て拾の四ひ形を
百文成しの新方志源婦
一両拾れ出家の

[illegible]中は支配[illegible]の書[illegible]
[illegible]検使[illegible]正[illegible]
[illegible]訪町[illegible]
[illegible]
[illegible]合[illegible]
[illegible]蔵住業[illegible]
[illegible]道[illegible]
役人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]切代立遣ス[illegible]芸階上ニ[illegible]富廣小路
[illegible]夜乃夏[illegible]きハ性柔[illegible]稚ノ仕業
[illegible]ハ[illegible]本車町[illegible]不[illegible]於[illegible]富義
世房百生[illegible]出[illegible]有後だ[illegible]切人と[illegible]
[illegible]ど兄[illegible]義[illegible]不和成[illegible]若や[illegible]
乃業[illegible]上[illegible]泉堂義[illegible]情
[illegible]ハ[illegible]義味乃[illegible]石橋[illegible]味[illegible]
[illegible]及び結ナ[illegible]百橋の或人共[illegible]仕[illegible]
[illegible]成乃長[illegible]之[illegible]所乃[illegible]娘乃[illegible]情
[illegible]

知州橋立

護國女[illegible]平記巻之九終

[illegible]谷深淵